

J-35

水上飛行機ターミナルを中心としたウォーターフロントリゾート施設の研究と設計 広島県尾道市を対象として

Research and design of waterfront resort facilities with a focus on seaplane terminal
As the target of the Onomichi, Hiroshima Prefecture

○加藤毅三¹, 小林直明²*Takumi Kato¹, Naoaki Kobayashi²

Abstract: Although the current of Japan has passed a variety of infrastructure, there is also undeveloped infrastructure. There is a seaplane that development can be expected in the island nation as one of them. In this research and design to research and design in the center of the seaplane terminal in anticipation of the development of the seaplane network. In addition, other resort hotels and.

1. はじめに

現在日本のインフラは高度成長時代から続く高速大量輸送が主流である。しかし、インフラ整備が終わりつつも孤島や過疎地へのアクセスは十分に考慮されていない。しかし、戦前運航していた水上飛行機であれば移動速度の速さや、多様な状況・用途で使用可能であり、今後の地方創生に寄与できると考える。この水上飛行機を使用するためターミナルだけでなくそれに付随する整備施設や商業施設・ホテル・医療施設などが必要なケースも考えられ、単なるターミナル付随施設ではなく、地方活性化の相乗効果も期待できる。

そこで本稿では水上飛行機が運航された広島県尾道を対象とし、メインターミナル及び周辺施設、サブターミナル及び周辺施設について設計提案を行う。

2. 計画背景

2-1 地域整備計画の再生

我が国ではインフラが整備され、同時に様々な地域整備も立案・計画されてきた。しかし、その後の国内経済の沈静化・低迷により、それら計画の多くが破綻した。その後 30 年程の月日が流れ当時の計画の再生や地域おこしが再び各地で展開され始めている。その一端を担う交通として水上飛行機のインフラ整備がある。

2-2 水上飛行機の利便性

水上飛行機は通常の飛行機とは異なり指定の陸上滑走路の建設を必要とせず、海上に 1000m の直線距離があれば海面から離発着することができる。そのため、海辺に面している過疎地域や孤島などにアクセスすることが容易である。また、船舶と比較しても移動速度が早く、陸へも滑走路があれば離発着することが可能であるため、多様な目的に富んでいる。

3. 計画敷地

計画敷地について Figure1,2 に示す。本提案では水上飛行機ターミナルのケーススタディとして運行開始した広島県尾道市境ヶ浜マリーナの広島県尾道市浦崎町 1364-6 にて計画を行う。瀬戸内海の飛行計画 1 拠点である尾道水道ウォーターフロント整備計画地域の広島県尾道市西御所町 5-25 も対象とする。尾道市の人口は減少傾向にあり、1980 年は 180,901 人だったが、2010 年には 145,202 人となった^{1) 2)}。そのため、本提案において地域活性化を図り人口増加を狙う。

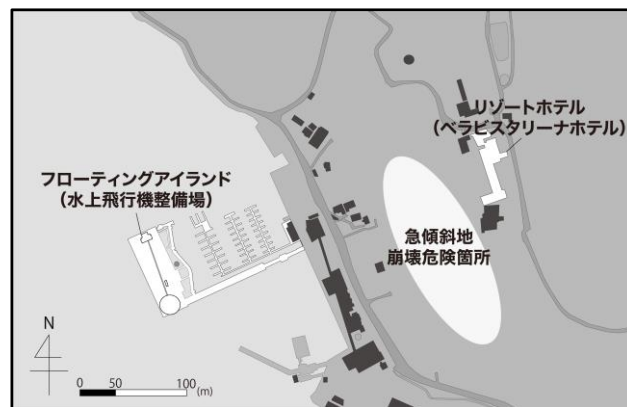


Figure1. Planning area (Sakaigahama)



Figure2. Planning area (Onomichi water road)

1: 日大理工・学部・海建 Graduate School, Nihon-U.

2: 日大理工・教授・海建 Prof. CST, Nihon-U., Mr. Eng

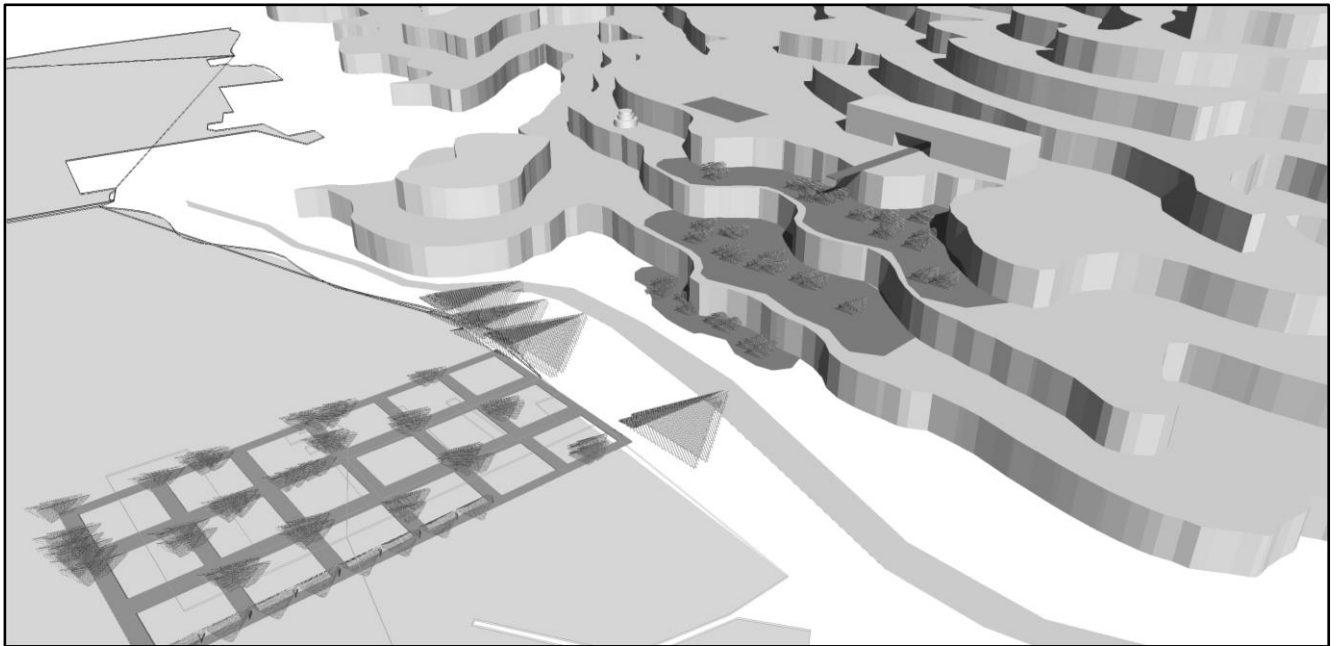


Figure3. Proposed plan (Sakaigahama)

4. 基本計画

4-1 境ヶ浜マリーナ計画

水上飛行機ターミナルを中心に総合リゾート施設を計画する。後方地は急傾斜地崩壊危険箇所に指定されている³⁾ので地盤改良を行い、リゾートホテル施設等を計画し、安全性確保と施設群の充実を図る。

4-2 尾道水道ウォーターフロント計画

人口減少を防ぐ手法の1つとして駅前施設の充実化を図る。まず、景観計画は尾道市のまちなみのイメージを取り入れ、次に商業施設は現在人気の「しまなみ海道」を渡るサイクリストが足を運びやすい施設とする。敷地の中心に位置する Onomichi U2 は上屋倉庫をリノベーションした商業施設で賑わいを持った建築であるためその連続性を重視する計画とする。

5. 建築計画

5-1 境ヶ浜マリーナ計画

境ヶ浜マリーナの計画案について Figure3 に示す。商業施設と水上飛行機ターミナル・整備施設・格納庫を隣接させ、利用者に水上飛行機に対する関心を高める施設配置とする。そのため、海と陸の連続性を重視するので、着水からターミナル入港までの間、海から見える山並みの景色を崩さない様に建物の形態に配慮する。また、自然に配慮した斜面地の木再利用・地中熱利用を採用して施設全体の省エネルギーに配慮する。

5-2 尾道水道ウォーターフロント計画

施設計画のダイアグラムについて Figure4 に示す。景観に問題のある立体駐車場を商業施設とし、駐車場機能

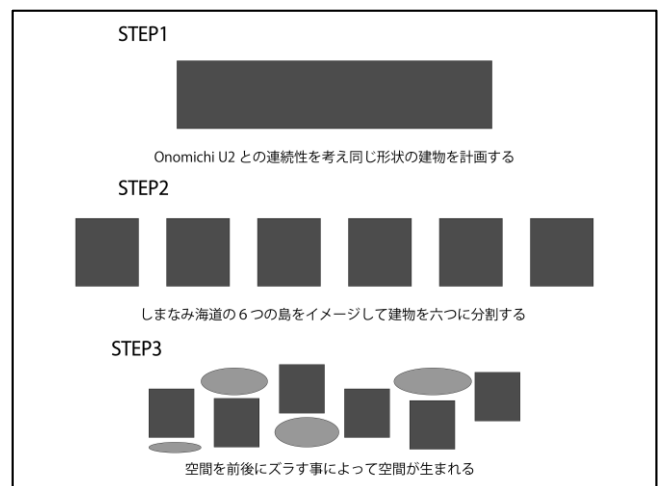


Figure4. Diagram

は半地下へと移動する。さらに、商業施設は Onomichi U2 と連続性を持たせるデザインで計画する。これらの建物は各島の産業のサテライトスタジオショップ機能を兼ね備え、サイクリストが容易に使用可能な計画とする。今後、Onomichi U2 の西に位置する現存の県営上屋3号は、Onomichi U2 と同様にリノベーションを行い水上機発着ターミナルとして提案を行う。

6. 参考文献

- [1] 尾道市 - eCitizen.jp
- [2] 尾道市都市計画デザイン課：尾道市の現況、尾道市都市計画マスタープラン-心かよいあうまちづくり-、尾道市、pp4-9、1999、4
- [3] 尾道市総務部総務課生活安全係：尾道市総合防災マップ、尾道市、p4、2013.10